

1. 法人本部

(1) 全体統括

2015年度は、法人創立50周年を迎える節目の年でもあり、第二期「るうてるホーム中期経営計画」の初年度でもありました。三年毎の介護報酬の見直しは、すべての事業についてマイナス改定となり、あわせて介護職員処遇改善加算が上乘せされたことで、厳しい事業運営のすべりだしでした。幸い地域区分の見直しがされたため、大幅な減収は避けられましたが、このことについては三年後も補償されているわけではありません。

また人材確保の面においても、年々介護業界へ就職を希望する学生が減少し、中途採用とあわせても応募者は減少の一途をたどっています。根本的な業界の体質改善とともに、魅力ある職場づくりがかかせません。現在働いている職員への待遇を含めた労働環境改善へ向けた取り組みもはじまり、より充実したサービス提供へ向けて各事業が協力し合う体制も整え始められました。

一体型施設の強みを活かした経営や効率的な組織運営も徐々に形になり、特に10月に行われた創立記念式典は多くの職員による手作りですすめられ、成功のうちに終わることができました。これらはすべて新しいるうてるホームのチャレンジに向けた一年となったことと思います。

(2) 基本方針に基づく運営状況

①法人理念の継承と共有を目的とした人材マネジメントの実践

ア. 年度当初には法人理念やサービス方針、行動指針についての説明をはじめとして、各事業部長から事業計画の説明をそれぞれの事業所において行い、事業運営に向けての一体感を出すことができました。また、るうてる法人会連合の主催する各種研修会への参加や同じキリスト教主義で運営している東京老人ホームとの共同研修の実施などにも継続して取り組み、理念の継承へ向けて積極的に関わることができました。

イ. 地域との関わりの中では、特定の部署や職員のみが中心になるのではなく、それぞれが発信者となって働きかける「はっぴいカフェ」もスタートさせました。職員一人一人が法人理念の具現化に向けて、それぞれの役割を認識し、行動を起こす一歩となりました。

②地域性、独自性、創造性をもった人材の確保と育成

ア. これまでに取り組んできたノウハウを活かし、新たに「人材確保・育成委員会」を発足させました。特に、人材確保に関しては安定した事業運営への最重要課題と捉え、積極的に取り組みました。近隣学校への就職ガイダンスや福祉業界の就職フェアの参加など、採用までの一連の流れを把握し、委員会を中心として働きかけたことにより、採用計画どおりの人員を確保することができたことは、特筆すべきことです。

イ. 育成の面においては、過年度より継続して行っている次期幹部候補者の養成を中心に、法人理念継承を目的とした研修の実施および事業部間連携などをすすめるためのOJTを通じたフォローアップなどを組織的に行ってきました。また対応力向上と事業展開を想定しての障害分野やスピリチュアルケア分野の研修はシリーズ化して全体職員研修として実施し、毎回4～50名の参加がありました。

ウ. 2013年度より取り組んできた人事考課については、昨年度からるうてるホームにあわせた行動評価表や評価スケールの作成を通じて議論を継続して行い、評価のブレやばらつきをなくす取り組み（管理者研修）を続けてきました。

③法人ガバナンスに基づいた中期経営計画の推進

ア. 一体化施設の強みを活かした経営に関しては、既存の各委員会がより積極的に活動を行うことで、よい結果を生むことができました。特に今年度は法人創立50周年記念事業として、式典

の開催、50周年記念誌の発行がなされ、歴史に残すことができました。また、内部監査の実施は担当行政から評価を受けるまでに至り、毎月行われている衛生委員会による各種情報発信は、安全な労働環境の整備に努めることができました。

- イ. 創設された奨学金制度を利用した申請が1件あり、無資格で入職した職員へのバックアップができました。
- ウ. 効率的な組織運営に関しては、各月ごとの様々な支出状況を共有し、それぞれの事業所が節減の意識をもって対応することができています。
- エ. 事業活動収支比率については、約3%を達成することができました。(目標は1%以上)

(3) 理事会・評議員会

① 2015年度に行われました、理事会・評議員会は以下のとおりです。

2015年	5月28日	第1回理事会	第1回評議員会	於：るうてるホーム
2015年	11月30日	第2回理事会	第2回評議員会	於：るうてるホーム
2016年	3月28日	第3回理事会	第3回評議員会	於：るうてるホーム

② 監事監査は、2015年11月30日、2016年5月19、20日に行われました。

(4) 2015年度事業概要 (2016年3月31日現在)

① 実施事業数：16事業 (うち四條畷市委託事業3)

(老人福祉法・介護保険法)

軽費老人ホーム(ケアハウス)、広域型特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護事業、訪問介護事業、訪問看護事業、居宅介護支援事業、地域包括支援センター

(障害者総合支援法)

多機能型(生活介護・就労継続支援B型)、居宅介護等支援事業、日中一時支援事業、短期入所事業

(市委託事業)

配食サービス事業、シーツ包布貸与事業、外出支援移送サービス事業、

② 総事業費 628百万円 (14年度615百万円)

③ 職員数 128名 (うち非正規・嘱託66名)

2. 委員会報告

(1) 人材確保・育成委員会

① 活動方針

今年度より活動を開始した人材確保・育成委員会は、法人の実践の積み重ねを継承・発展しサービスの向上と地域福祉の推進に積極的に取り組むため、志を同じくする人材を発掘し、また職員同士が相互に成長し合える環境を構築することを目的として活動を開始しました。

② 活動状況

2015年度は、これまで法人事務局が多くを担っていた人材確保の取り組みを委員会の活動として重点的に行いました。また、人材育成については、2年目となった東京老人ホームとの合同研修の前後にはるうてるホーム独自の継続研修を行い、主任・リーダーが人材育成はサービスの質を支える根幹となり、法人の理念を具現化する要素であることを深めました。

③ 人材確保についての活動内容

ア. リクナビシステムの運営・管理

- エントリー数 44 名 うち法人説明会・見学会に 2 名参加
- イ. 就職フェア等へのブース出展 計 4 回 面接者計 23 名
 - ウ. 法人説明会・見学会の開催 計 9 回 参加者計 10 名
 - エ. 体験就労、職場体験の受け入れ 計 2 名
 - オ. 大学等への訪問 計 3 校
 - カ. ハローワークの活用
 - ・新卒応援ハローワーク マッチングブース出展 面談者 1 名
 - キ. 高等学校への求人票送付 計 3 校
 - ク. 児童養護施設退所者の就労受け入れへの取り組み
 - ・児童養護施設へのヒヤリング訪問 2 名

④人材育成についての取り組み

- ア. 東京老人ホームとの合同研修 (12/5~12/6) 10 名
- イ. 合同研修に向けての事前研修 2 回
- ウ. 合同研修後のフォローアップ研修 1 回

(2) 危機管理委員会報告

①内部監査について

- ア. 内部監査は 2 回実施しました。対象事業所は 7 月訪問介護事業所、2 月ケアハウスでしたが、対象外の事業所も介護保険法、障害者総合支援法、老人福祉法等、それぞれの法令に応じた点検を実施しました。監査を受け、重要事項説明書など必要書類の見直しを行った事業所もありました。
- イ. 現場職員の課題意識につながるよう、主任、副主任らを監査役とし、法令に関する勉強会や打ち合わせを行った上で内部監査に取り組みました。
- ウ. 監査の中では、労務管理や苦情報告書の取り扱い、研修計画や実施の記録、預り金の対応など様々な課題が確認され、監査対象事業所において改善が進められました。特に 7 月の監査については、9 月の府監査前に実施されたこともあり、書類の整備状況を確認する上で良い契機となりました。
- エ. 監査内容及び監査改善結果については、全体での共有が十分ではなく、今後取り組むべき課題として確認されました。

②避難訓練について

- ア. 避難訓練は法令どおり、年 2 回実施しました。第 1 回目は夜間、第 2 回目は日中、いずれも火災の想定です。消防署員のレクチャーを受け、職員を利用者役にして避難誘導し、実践的な訓練を行いました。
- イ. 非常災害時連絡網については、実際に発動させ、連絡の流れを確認しました。

③安全運転講習について

運転従事者を対象に安全運転講習会を行いました(5月)。また、交通事故の発生が目立ったことから、運転適性検査を実施しました(2月)。検査結果については、安全運転管理者よりフィードバックを行い、運転従事者にそれぞれの運転特性を確認してもらうようにしました。

④その他

監事監査では、震災対策について指摘がありましたが、次年度に持ち越しとなりました。また、事故報告書やヒヤリハット等の情報は、事業部単位で管理されていますが、リスクマネジメント体制を強化するため、法人全体で共有していくことの必要性を確認しました。

(3) 地域交流委員会報告

①50周年記念事業の推進

2015年10月10日に記念礼拝、記念式典、懇親会の企画をおこないました。委員会が中心となり、利用者、来訪者とするうてるホームの歩んできた50年を共有し、日頃の感謝を伝え職員でおもてなしをするというコンセプトで進め、法人全体で取り組みました。当日の参加者記念礼拝69名、記念式典125名、のべ194名の方と、交流を持つことができました。

②ボランティア活動の整備

ボランティア受け入れの必要性和効果、また、ボランティアへの配慮を全職員が理解できるシステム作りを進めました。委員内部での研修を行い、職員への周知方法や、今後の受け入れ方法の検討を行いました。

③次世代育成推進法に基づく一般事業主行動計画の推進

12月に計画期間満了にともなって新たに計画を策定しました。職員が仕事と子育てを両立でき、働きやすい環境をつくれるように進めることと、職員のメンタルヘルスの目的で職員交流会の企画を進める計画をたてました。

(4) 安全衛生委員会報告

①定期健康診断

ア. 入居者健診

実施時期 8月6日 受診者数 ケアハウス・特養 計101名

イ. 職員健診

実施時期 8月8日、9月25日 受診者数 121名

実施機関 医療法人 朋愛会

朋愛会には、旧岡山東の施設時代から依頼していますが、新しい施設にも慣れ、3階多目的室を中心に機能的に実施できました。レントゲン車は大型のため、デイサービス側の駐車場を使用しました。

③職員個別健康相談

従来は協会けんぽから相談員が来訪していましたが、2014年度より浦野Dr.により実施しています。今年度は対象者4名が相談しました。

②インフルエンザ予防接種

入居者88名 職員121名

④研修受講状況

ア. ストレスチェック制度セミナー

北大阪労働基準監督署による制度についての研修に2名参加

イ. メンタルヘルスセミナー 2名参加

⑤感染症対策

感染症予防強化週間を設けて、特にインフルエンザ感染の予防対策を呼びかけました。

実施時期：2015年11月（1週間）、2016年2月（2週間）

感染者状況：インフルエンザ 職員9名 入居者3名 前半はA型 後半はB型の発症でした。

⑥衛生委員会

2014年度より嘱託医が産業医に就任しています。

同時に衛生管理者も設置し、月1回の衛生委員会を開催しました。

委員会開催回数 12回

内容は職員の労働衛生環境確保につき毎回時期に沿ったテーマを検討し、職場巡回も実施しました。

3. チャブレン

(1) 業務報告

2015年度は、特別養護老人ホームの相談員と密接な情報交換を行うことで、キリスト者ではない特養の入居者の葬儀をご家族と一緒に執り行うことができ、これまでの課題であった「ホームでの看取り」について前進した年度となりました。 これまでもキリスト者ではない入居者の葬儀が執り行われることはありましたが、多くは親族などがおられない方であり、親族があつて召された方の多くは、近くの祭儀場で行われることがほとんどでした。法人全体において、キリスト教式の葬儀の意味、また何よりも共に生きた者たちの「場」から召された者を送り出すという意味と理解が深まっている一つの成果と思ひ、感謝したいと思ひます。

特に今年度は入居者や利用者であるお客様に喜んでいただく時として備えてきた、社会福祉法人るうてるホーム創立50周年記念式典を、地域交流委員会が中心となって10月に開催できたことは大きな喜びでした。あわせて50周年版「支えられつつ支えて」を発行し、次の50年に向かって歴史を整理することができました。この延長線上にある100周年は決して未来のことでなく、私たちの将来となったことと信じています。

後援会ニュースは、法人報とあわせて年4回の発行に戻して発行しました。また、クリスマス会も昨年同様デイサービスを会場として、すべての事業所の協力を得て実施することができました。感謝して報告いたします。

4. 軽費老人ホーム ケアハウスるうてる

(1) 運営状況

2015年度は入居者7名、退居者7名でした。退居された方の内容としては、要介護状態が改善したことにより自宅での生活に戻ることができた方もおられ、介護状態の変化により、特養に入所された方や亡くなられた方もおられました。その中でも、最後は在宅酸素を利用しながらケアハウスで生活を希望し、20年間続いたホームでの生活を終えた方から学んだことは、ケアハウスは「自分の生きる場所」として大切に思っておられたということでした。このようにケアハウスで最後まで暮らしたいと望まれた時に、その思いに応えていける取り組みが今後も必要と考えています。

今年度は「自助と互助の精神を基本として日常生活に活力を高める支援」として事業計画に掲げて参りました。長い年月を乗り越えてこられた方々にとって、この精神は特別なことではなく、自然に生活の中で実践してきたことです。助け合いの精神は日々の生活で生かされていました。食事の準備を皆で楽しく準備したり、礼拝の時間を忘れておられる方に声を掛けてくださったり、小さな助け合いが日々の生活に温かさや心地よさを与えてくださいました。

また今年度の特筆すべきこととして、地域の方々の「憩いの場」として、そして入居している方々との交流の機会として、ケアハウスのホールを開放し、月2回「はっぴいカフェ」を開催することができました。

(2) 事業実績

①利用状況

	2015年度	2014年度	差異
のべ利用者数	17,478名	17,241名	237名
入院のべ日数	585日	694日	▲109日
短期入所利用日数	187日	279日	▲92日
稼働率(対実員)	96%	94.5%	1.5%

②入居者の現状（2016年3月31日現在）

年齢	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計
男	2	4	4	1	0	11
女	1	8	16	13	0	38

最高齢：男 97歳 女 97歳 平均年齢：男 79歳 女 83.8歳 全体 82.6歳

介護度別	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
男	1	1	3	0	1	0	0	6
女	6	5	10	6	3	0	0	30

単位：実人数

介護保険利用状況	2015年度	2014年度	差異
訪問介護	20	26	▲6
訪問リハビリ	3	2	1
通所介護	23	20	3
福祉用具レンタル	11	16	▲5
訪問看護	1	3	▲2
短期入所	1	1	0
計	59	68	▲9

5. 特別養護老人ホーム るうてるホーム

(1) 運営状況

2015年度は、「最期まで住み慣れたるうてるホームで過ごしたい」というお客様やご家族の希いに、職員一人一人が真摯に向き合った一年でした。その希(ねが)いに何とか応えたいという職員の強い思いと地域医療機関の多大なるサポートのもと、3名の方をホームで看取ることができました。また看取りには至らずとも、可能な限りホームでの生活を継続していただけるよう努めたことで、入院期間を半月～一ヶ月程度に短縮することができました。

事業収入面においては、4月に介護報酬改定がありました。加算要件を維持することにより、大幅な収入減には至りませんでした。看取り対応についても、加算算定できるよう体制を整えました。

入退居の動きは例年の3倍に上り、次期入居者の確保には大変苦慮しました。高齢者向け住宅や施設の普及により、利用者確保が容易ではないことが認識できました。このため、老健や病院の相談室との情報共有を始めました。

(2) 事業実績（定員50名）

	目標	2015年度	2014年度	目標との差異
のべ利用者数	17,386人	17,271人	17,195人	▲115人
稼働率	95.0%	94.4%	94.2%	▲0.6%
平均介護度	—	3.9	4.0	—

利用者の現況（2016年3月31日現在）

年齢	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計
男	0	2	4	2	0	8
女	1	2	14	21	4	42

最高齢：男 93歳 女 106歳 平均年齢：男 83.4歳 女 90.7歳

利用年数	～1年	1～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20年～	計
男	2	4	2	0	0	0	8
女	11	17	12	1	1	0	42

平均在所期間：3年8ヶ月

6. るうてるホーム短期入所生活介護事業所

(1) 運営状況

2015年度は、障害福祉関係の利用が大幅に伸びた一年でした。利用者の口コミや他法人事業所の縮小等が影響し、対前年比で7割増の利用がありました。関係機関との関わりやニーズは多様であり、それぞれの特性に合わせた対応ができるよう、他事業所見学や研修等を通じて学びを深めました。

一方で、介護保険事業においては大きく伸び悩みました。新規利用者の内訳は、介護保険関係ではるうてる居宅介護支援事業所22件、他事業所26件、障害福祉関係18件であり、全体としては前年度とほぼ同数でしたが、他事業所からの依頼は2割減少しました。これには、近隣で短期入所事業所が新設されたことも影響しています。

また、他法人を含め特養への移行や入院、逝去により、一ヶ月を超える長期利用者を一定数確保することは困難でした。このため、他事業所への営業活動や入居申込者リストの活用などにより、利用者の開拓を試みました。ケアハウスでの生活が難しくなられた方についても、引き続き受入れを行いました。

(2) 事業実績（定員20名）

	目標	2015年度	2014年度	目標との差異
のべ利用者数	6,222人	3,755人	4,731人	▲2,467人
稼働率	85.0%	51.3%	64.8%	▲33.7%

※平均利用は10.2名/日でした。

※上記の内、のべ1,372日が1ヶ月以上滞在の短期入所でした。前年度と比べると半減しています。

※上記の他、障害者総合支援法に基づく短期入所利用が年間のべ1,151日ありました。高齢と障害を合計すると、稼働率は67.0%でした。

利用登録者の現況（2016年3月31日現在）

年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～99	計
男	(1)	(2)	(4)	1(3)	2(1)	4	2	0	9(11)
女	(4)	0	(2)	(3)	2	10	16(1)	11	39(10)

※2016年1～3月の利用動向より集計、()内は障害利用者

7. 通所介護事業 デイサービスセンターるうてる

(1) 運営状況

2015年度は目標年間稼働率90%に対し、93.3%の実績をあげることができました。利用者のニーズに応えること、また、利用者に喜んで頂けるように各職員が意識を持ち、継続して利用していただける取り組みができたのが良い結果につながりました。

新規利用者の獲得では、体験利用の対応を大切にしました。利用者に協力していただき、利用者同士で円滑に関係づくりが出来るよう配慮も行い、年間54名中32名を新規利用につなげることができました。利用につながらなかった場合にも、なぜ利用につながらなかったかを、職員一人一人が考

える機会を設けました。

今年度の特徴としては、他市の利用者が2名から8名と増加し、他市ケアマネジャーへの認知度もあがってきています。

4月からは目標としていた加算を新たに算定し、体制の整ったサービス提供ができています。市内の事業所連絡会に積極的に参加し、他事業所の情報や、相談できる良好な関係づくりもできています。

日常生活支援総合事業への取り組みとして、昨年に引き続き「はっぴいカフェ」を支援しました。開催当初は10数名の登録でしたが、現在は40名近くの方々が登録され、毎回20名程度参加されています。地域の集いの場としての定着し、職員との交流の場にもなっています。

(2) 事業実績

	目標	2015年	2014年	目標との差異
のべ利用者数	9,749人	10,191人	9,849人	363人
一日平均利用者数	31.5人	32.7人	31.6人	1.2人
稼働率(対定員)	90.0%	93.3%	90.2%	3.3%
体験利用者数	36人	54人	52人	18人

① 介護保険サービスは、新規利用 52名、利用再開 8名に対し利用休止者は 52名でした。

8. 障害者多機能事業 ジョイフルるうてる

(1) 運営状況

生活介護は、利用者のニーズである入浴サービスの充実と医療的ニーズの高い方への対応を積極的に行ったことにより、年間稼働率95%の実績をあげることができました。このことにより、2016年3月に定員を10名から12名に増員しました。また、活動報告や意見交換を目的として初めて「家族会」を開催しました。家庭のニーズにより、営業日以外の対応も行うなど、家族を含めた生活を支援することを大切にし、理念の実践につなげることができました。

就労継続支援B型では、目標稼働率50%に対し40.6%となりました。就労支援だけに留まらず、相談支援を含めた生活支援全般に力を注ぎました。活動としても、施設内の清掃作業と昨年からの課題であった下請け作業を取り入れることができました。工賃については、4月には一人当たり月平均工賃が4千円代から1万円に届くほどの月もありました。

また、日中一時支援事業では口コミで登録者が増え、定期的な利用もしていただけるようになりました。

(2) 事業実績

生活介護	目標	2015年度	2014年度	目標との差異
のべ利用者数	2,372人	2,505人	2,062人	133人
一日平均利用者数	9.2人	9.7人	8.0人	0.5人
稼働率(対定員)	90%	95.0%	80.2%	5%

① 新規利用4名に対し、利用休止者は4名でした。

就労継続支援B型	目標	2015年度	2014年度	目標との差異
のべ利用者数	1,295人	1,052人	368人	▲243人
一日平均利用者数	5.0人	4.1人	1.4人	▲0.9人
稼働率(対定員)	50%	40.6%	14.3%	▲9.4%

① 新規利用1名に対し、利用休止者は1名でした。

9. 四條畷第1地域包括支援センター

(1) 運営状況

2015年度は、「住民力（住民の持つ力）の活用」をキーワードに地域支援の充実を図ってきました。地域住民から自分の住む地域で住民同士が見守りしあえる環境作りをしたいという相談があり、地域住民が主体となって地区福祉委員会や地域の病院等関係機関と合同で研修会を開催する支援を行いました。また、企業やNPO、中学校から認知症サポーター養成講座の開催依頼がありました。市内各地域包括支援センターと協働し、7回（うち講師5回）の実施を行いました。

12月には、住民や関係機関、NPOなど地域支援に関わる方々の活動を知り合う機会として事例報告会を市内各地域包括支援センターと協働して主催しました。

職員の実践力向上については、定期的に地域支援のあり方について議論する会議を設け、地域に関わる意識や技能を振り返る機会としました。日頃の支援からの考察を積極的に職員同士が伝え合えるようになることは継続した課題です。

今年度は、地域住民との協働を通して、“個別支援から地域支援を展開し、地域支援が個別支援に活きる”という循環を職員間で共有できた一年であったと考えます。社会情勢の変化により今後も地域包括支援センターの業務に対し多様化していくことが予想されます。“四條畷版地域包括ケア”の構築に地域包括支援センターとしてどう関わっていくのが課題であると考えます。

(2) 事業実績

①包括的支援事業

ア. 総合相談支援事業

相談実績	2015年度	電話	FAX	来所	訪問	その他	計
	実人数	228	0	73	58	17	376
	延件数	333	0	81	63	19	496
	夜間緊急	23	0	3	1	1	28
相談実績	2014年度	電話	FAX	来所	訪問	その他	計
	実人数	212	0	31	64	11	318
	延件数	289	0	40	70	12	411
	夜間緊急	18	0	0	0	0	18

イ. 介護予防ケアマネジメント業務

	2015年度	2014年度
二次予防高齢者ケアプラン作成数	0件	0件

ウ. 権利擁護事業（ ）は実人数

	2015年度	2014年度
権利擁護に関する相談	11件(12人)	4件(5人)
高齢者虐待に関する相談	14件(26人)	8件(9人)

エ. 包括的継続的マネジメント業務（ ）は延べ人数

	2015年度	2014年度
介護支援専門員支援に関する相談	28件(33人)	16件(19人)

②指定介護予防支援に係る事業

	目標	2015年度	2014年度	目標との差異
要支援者ケアプラン作成数	1,900件	1990件	1,914件	90件
うち委託件数	1600件	1754件	1,612件	154件
うち自事業所作成件数	300件	236件	302件	▲64件

③介護予防事業

ア. 介護予防普及啓発事業 介護予防教室・介護予防に関する講演会 ()は参加人数

	2015 年度	2014 年度
開催回数	2 回 (58 人)	3 回 (67 人)

イ. 地域介護予防活動支援事業 ()は参加人数

	2015 年度	2014 年度
運動サポーター養成講座	0 回 (0 人)	1 回 (3 人)
運動サポーターフォロー講座	0 回 (0 人)	1 回 (33 人)
運動サポーター連絡会議	4 回 (32 人)	3 回 (23 人)
カラコロ体操	71 回 (1623 人)	76 回 (1754 人)
その他の事業 (ボランティア活動支援等)	16 回 (78 人)	6 回 (25 人)

④その他の事業

ア. 家族介護支援事業 ()はのべ参加者数

	2015 年度	2014 年度
家族介護教室	12 回 (64 人)	12 回 (104 人)

イ. 認知症高齢者見守り事業 ()はのべ参加者数

	2015 年度	2014 年度
認知症に関する教室・講演会	7 回 (393 人)	1 回 (12 人)

10. 居宅介護支援事業 ケアプランセンターるうてる

(1) 運営状況

事業方針として2年目となる総合相談機能の拡充への取り組みは、4月より介護支援専門員が1名増員となり、居宅介護支援・介護予防支援受託の新規利用者を担当できる体制が整いました。現在はケアハウス入居者様や法人内地域包括支援センターからの新規相談も積極的に対応できています。

また、障害児・者への相談支援については、事業に従事するために必要な相談支援従事者初任者研修を10月に受講し、12月から計画相談支援の指定を受け、常勤換算0.2名の職員を配置する体制でスタートしました。

専門性向上のために職員の個別研修計画を一昨年度から継続して作成しており、今年度もそれぞれの職員の課題意識を明確にしつつ外部研修を受講しました。事業所としての重点目標としている看取りに向けてのケアマネジメントを深めていくのは今後の継続した課題です。

9月に実施された大阪府実地指導では、口頭での指摘はいくつかあったものの、文書指摘もなく、昨年度まで事業方針として進めてきた「法令遵守の徹底と点検」の一定の成果を確認できました。

ただ、作成したケアプランの記載内容が不十分だったために他の居宅サービス事業所が指摘を受けた事例があったため、年度途中からはケアプラン内容の質の向上に重点的に取り組みました。

昨年度に引き続き、四條畷市介護支援専門員連絡会に当センター主任介護支援専門員が世話役として参画し、研修の企画等を通して各関係機関と連携を構築していきました。

また、ケアハウス入居者様やショートステイ利用者様、在宅サービス利用者様への有償サービスの実施を試験的に開始しました。

(2) 事業実績

①介護保険 居宅介護支援・介護予防支援

	目標	2015年度	2014年度	目標との差異
介護ケアプラン数	2,400件	1,626件	1,739件	▲774件
介護予防ケアプラン受託数	360件	470件	426件	110件
一人あたり請求件数/月	37.0件	26.7件	34.6件※1	▲10.3件
一人あたり支援件数/月	39.6件	30.1件	38.3件※2	▲9.5件

※1…一人あたり請求件数＝{要介護ケアプラン数＋(介護予防ケアプラン÷2)}÷5.8(常勤換算値)/月

※2…一人あたり支援件数＝(要介護ケアプラン数＋介護予防ケアプラン)÷5.8(常勤換算値)/月

②障害者総合支援 計画相談支援

	目標	2015年度	目標との差異
ケアプラン数	12件	0件	▲12件

1.1. 訪問介護事業 ヘルパーステーションるうてる

(1) 運営状況

サービスの質の向上については、「サービス提供の報告や伝達、様々な意見交換がしやすい事業所の雰囲気が出ています。」との声が職員から出ています。また、ケアプランセンター、訪問看護ステーションと同室の事業所となった事で、一人の利用者についての法人内事業所間の情報交換、情報共有もタイムリーかつ密になってきていることを実感することができています。

ただ、ヘルパーの人員増が実現しない中、職員一人一人のサービス提供時間の増加が要因となり、月1回の事業所内研修も実施が困難となっており、法人内外の研修にも十分に参加できていない状況です。

ヘルパーステーションが主力となり、ケアハウス入居者や在宅サービス利用者への法人独自の有償サービスの提供を試験的に開始しています(今年度実人数10名延べ79回)。このような実績を踏まえ、今後の有償サービスのあり方の検討を他事業部と協働で行っています。

9月に実施された大阪府実地指導では、サービス提供の内容については大きな評価をいただきました。一方で、訪問介護計画の作成について、居宅サービス計画との整合性やサービス提供の内容についてより詳細な内容が必要であることが課題として明確になり、下半期には重点的に取り組みました。

数年来の課題となっている喀痰吸引等業務の登録を進めるため、研修受講等の手続きを進める必要がありますが、ヘルパー不足の解消と研修時間の創出は大きな課題として継続しています。

課題としての四條畷市内の介護サービス提供事業所と協働した人材確保の取り組みや将来的な展望としての定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業の実施、日常生活支援総合事業の訪問型サービス実施のための準備については継続することとしました。

(2) 事業実績

	目標	2015年度	2014年度	目標との差異
利用者数(月ごと延べ人数) (うち障害者)	780人 (120人)	734人 (82人)	801人 (78人)	▲46人 (▲38人)
のべ訪問回数(介護保険)	8,000回	7,960回	7,901回	▲40回
〃 (障害者)	1,800回	1,415回	1,110回	▲385回

1.2. 訪問看護事業 訪問看護ステーションるうてる

(1) 運営状況

2015年度は8月ようやく非常勤職員1名を採用することができました。また、4月には近隣大学に看護学部が新設され、当法人各サービス事業所への実習等の依頼を受けるなど、看護師養成機関との連携の取り組みも進めています。

昨年度の管理者休職後、利用者やご家族、関係機関の皆様にご協力を得つつ、サービス提供の縮小を進めざるを得ない状況でしたが、懸案となっていた職員の業務過多が改善し、労働環境は改善することができました。

また、訪問看護とジョイフルるうてる双方を利用の障害者への支援では、送迎や看護業務など相互に職員を融通し、事業所間連携を進めることができました。

2015年5月に難病法改正があったこともあり、上半期には年度当初の事業計画に加えて、必要な書類の整備や利用料徴収などサービス提供を行うための事務的な整備を総務部の協力も得て集中的に進め、利用者への法改正についての説明や諸手続き等の支援を行いました。

9月の大阪府実地指導では、日々のサービス提供の内容については高い評価を得ました。反面、訪問看護計画作成については、居宅サービス計画、サービス提供記録との整合性が不十分である点を指摘されました。また、報酬体系の理解、居宅介護支援専門員との連携、訪問看護計画作成など介護保険、医療保険の制度の理解を今まで以上に深める必要性を痛感し、下半期にはステーション全体での学びの場を設けました。

看護師養成の環境整備については、年度当初には近隣大学との連携による教育・研修体制の構築を計画しましたが、大学側の時間的制約があり、実施することができませんでした。しかし、訪問看護師の研修を通所事業部との連携で継続的に実施することができたことは大きな成果と考えます。

(2) 事業実績

	目標	2015年度	2014年度	目標との差異
延べ利用者数	288人	223人	316人	▲65人
介護保険延べ件数	780件	951件	990件	171件
医療保険延べ件数	1,056件	936件	2,251件	▲120件

サービス提供については、職員の労働環境の改善と、長時間サービス提供を行っていた利用者の死去により、介護保険(年間提供時間 昨年度 49650時間→今年度 48474時間)、医療保険(提供件数 2251件→1325件)とも減少しました。ただし、事業収入については、年度当初の予算を達成することができました。医療保険の大幅な減少と介護保険の増加は、現職員体制での職員の力量での強みを活かしたサービス提供を行う方針をとりました。

①保険区分 <①、②、③とも各年度3月の利用者状況>

	2015年度	2014年度
介護保険利用者	12	11
医療保険利用者	6	9

②年齢区分(介護保険・医療保険)

	2015年度	2014年度
40歳以下	3人	6人
40～60歳	1人	0人
60～70歳	3人	3人
70～80歳	6人	7人
80歳以上	9人	4人

③介護区分(介護保険利用者)

	2015年度	2014年度
要支援1	0人	0人
要支援2	0人	0人
要介護1	4人	2人
要介護2	4人	3人
要介護3	1人	2人
要介護4	1人	1人
要介護5	2人	4人

13. 栄養

(1) 運営状況

2015年度は「食事を通してその人らしい生活が継続できるよう支える」を方針の第一に挙げていましたが、ソフト食を導入できたことは大きな進捗になりました。以前からの課題であり、施設と給食会社が一体となって試食を繰り返し、実際に始めることができました。現在はまだ食事全部には至らず、お客様の嚙下状態に合わせたものを提供する上で、まだまだ勉強や理解を深めていく必要がありますが、味や硬さを検討していく段階で、ソフト食の良さを職員や厨房スタッフも理解していったようです。今後も引き続き進めていきます。また、食事提供スタイルの工夫の面では、嗜好調査の意見を取り入れて、各ユニットや2ユニット合同で、鍋物や出来立て料理を楽しんで頂きました。

利用者の健康維持に関しては、栄養ケアマネジメントは、ユニット会議への参加や食事時間に状況を見ることにより、きめ細かい書類作成ができています。日常業務に組み込むことによって着実に進んでいます。

活気ある開かれたホーム作りへの対応として、事業所での行事に合わせた献立を提供していますが、ケアハウスでは行事食につけるお品書きを、お客様に作って頂きました。材料を準備して希望される方に参加してもらいましたが、作る楽しみとコミュニケーションの場になりました。これも入居者の方の新たな食事への関わりの一つになると考えます。

厨房では、業務の流れや提供方法に慣れてきたこともあり、お客様のニーズに合った細かなサービスや各ユニットや事業所の行事を充実することができましたが、その反面、苦情や破損、温度管理等のリスクマネジメントが前年度に比べ増加しました。ソフト食の導入も含めて、再度業務の流れや作業の見直しを検討し、より安全で細やかなサービスを心がけていきます。

(2) 事業実績

		上半期	下半期	合計	2014年度
ケア	実食数	23,485	22,924	46,409	46,519
特養	実食数	29,767	30,375	60,142	61,243
	経管	1,742	2,729	4,471	4,947
デイ	食数	4,961	5,040	10,001	9,506
障害	食数	862	928	1,790	1,512
配食	食数	488	516	1,004	1,154

(3) 事業実施状況

	特養	ケア	デイ	ジョイフル
4月	お花見御膳	お花見御膳	お花見御膳 るうてる膳	お花見御膳 るうてる膳
5月	創立記念特別献立 端午の節句特別献立	創立記念特別献立 端午の節句特別献立	創立記念特別献立 端午の節句特別献立 るうてる膳	創立記念特別献立 端午の節句特別献立 るうてる膳
6月	ユニット誕生会		るうてる膳	るうてる膳
7月	七夕特別献立 ユニット誕生会 (流しそうめん)	七夕特別献立	七夕特別献立 流しそうめん るうてる膳	七夕特別献立 流しそうめん るうてる膳
8月	ユニット夏祭り	夏祭り	夏祭り るうてる膳	夏祭り るうてる膳

9月	敬老会特別献立 ユニット誕生会	敬老会特別献立	敬老会特別献立 るうてる膳	敬老会特別献立 るうてる膳
10月	ユニット誕生会		運動会メニュー	運動会メニュー
11月	ユニット誕生会	ご馳走の日	るうてる膳	るうてる膳
12月	クリスマス特別献立 クリスマスケーキ	クリスマス特別献立 クリスマスケーキ	るうてる膳 クリスマス特別献立	るうてる膳 クリスマス特別献立
1月	お正月特別献立 ユニット誕生会	お正月特別献立 鍋物 出来立て料理	お正月特別献立 ご馳走の日	ご馳走の日
2月	節分特別献立 バレンタイン特別献立 ユニット誕生会	節分特別献立 バレンタイン特別献立 ご馳走の日	るうてる膳 節分特別献立 ご馳走の日	るうてる膳 節分特別献立 ご馳走の日 鍋物
3月	雑祭り特別献立 ユニット誕生会	雑祭り特別献立	るうてる膳 雑祭り特別献立	るうてる膳 雑祭り特別献立

1.4. 総務部

(1) 運営状況

2015年度は、「移転後」というフレーズも『まくら言葉』に使えなくなり、日々の業務を確実に遂行してきました。また、創立50周年という記念の年でもあり、記念誌の発行や記念式典の挙行など、節目の年にふさわしい事業を行うことができました。先輩方の歩みをたどる中で、来たるべき新しい50年に対する自分たちの指針への思いを確かに行うことができました。

上半期は、安定的な事業運営のために、年間を通じてどのような施策が有効なのかを色々探っていました。ひとつは、水光熱費の削減を目指し、節水器具の設置を実施してみました。これについては、当初の目標ほどの結果は出せていません。また、2014年度後半から食材費が増加の傾向がみられたため、給食会社とも話し合いを重ね、契約更新時には相見積をとり対応しました。結果としては現在のマルワ給食との契約更新でしたが、管理費の見直しを行うことができました。

下半期は業務の効率運営を推進しました。介護報酬や自立支援、診療報酬の請求業務を一括して行うことや、栄養関係事務の担当を栄養士から総務事務担当者へ変更することなど、継続して取り組んできたことで、スムーズな流れになっています。また、総務部内での業務を複数担当者で行う範囲を拡げ、業務内容のレベルアップが図れるようになりました。

(2) 事業実施状況

①業務環境の整備

ア. 2015年度5月に導入したタイムレコーダーによる勤怠管理も定着し、半月毎に勤務表をチェックすることにより、各事業所の勤務状況が正確に把握できるようになりました。有給休暇の取得状況については、2015年度は全事業所平均で14.4日でした。超過勤務は昨年度に比べ削減になりました。

イ. 年限が経過した文書類の廃棄は決算後に全事業所で一斉に行いました。処分時に作業を簡便にするための事前準備もなされるようになったため、スムーズに実施できるようになりました。

②効率的な業務運営

ア. 介護保険、自立支援、診療報酬などの請求事務の管理を総務で一括して行うようになりました。効率化の面だけでなく、請求事務に関するミスの減少やレベルアップ、担当者の育成も担って

います。各事業所でバラつきがあった事務処理についても、質の向上によって足並みをそろえていっています。

イ. 総務の内部でも業務内容を見直し、複数担当者の養成を行っていっています。こちらも単に担当者数が増えるというだけでなく、業務のレベルアップや精度の向上につながっています。

③リスクマネジメントの取り組み

ア. 情報の共有化により、法人内課題解決や業務運営をサポートすることができるよう、日々情報に対し注意を払い、収集および、適切な発信を心がけました。

イ. 2014年度に四條畷市による初めての法人監査がありましたが、2015年度はその時対象とならなかった栄養部門と施設会計の監査がありました。指摘を受けた事項もありましたが、改善、訂正をいたしました。

ウ. マイナンバー制度が施行になり、まず職員の番号や確認書類の提出を求めました。今まで以上に一層の個人情報管理が必要になりますので、方針や対策をたてました。

15. 四條畷市委託事業

(1) 運営状況

配食サービス、リネンサービス共に減少傾向が続いています。配食サービスについては、高齢にて新規3名ありました。ニーズが全くない状態ではないのですが、終了も3名あり、減少が続いている状態です。リネンサービスは、新規利用者がありませんでした。外出支援移送サービスは、今年も実施することなく終わっています。

(2) 事業実績

①配食サービス

	2015年度	2014年度	差異
のべ利用者数	63人	77人	14人
配食数	823食	1112食	▲289食

②リネンサービス

	2015年度	2014年度	差異
のべ対象者数	24人	42人	▲18人
のべ枚数	231枚	487枚	▲256枚

③外出支援移送サービス

	2015年度	2014年度	差異
利用実人員	0人	0人	-人
延べ利用者数	0人	0人	-人